

高城町文化財調査報告書 第15集

町内遺跡  
発掘調査報告書Ⅳ

2004

高城町教育委員会

## 序

都城盆地の北東部に位置する高城町は、雄大な霧島を望む自然豊かな町であると共に、県指定文化財の「高城町古墳群」、「穂満坊のあげ馬」を始め、数多くの文化財が残る歴史と文化の町でもあります。

本書は国・県の補助を受け平成15年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録です。本年度は開発予定地において文化財の有無を確認する試掘調査に加え、箱式石棺2基、地下式横穴墓12基等が出土した牧ノ原遺跡群の調査も実施されました。この報告書が埋蔵文化財行政の一資料としてだけでなく、生涯学習の場において一般町民の方々に広く活用され、埋蔵文化財に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜りました各関係機関並びに町民各位の皆様方に心から深く感謝を申し上げます。

平成16年3月

高城町教育委員会

教育長 内 田 國 昭

## 例言

- 1 本書は高城町教育委員会が平成15年度に、文化庁及び宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の概要報告である。
- 2 調査は高城町教育委員会が主体となって実施し、宮崎県教育庁文化課主査飯田博之の指導をうけた。調査組織は次のとおりである。

調査主体 高城町教育委員会

教 育 長 内 田 國 昭

社会教育課課長 江内谷 満 義

同 課 長 補 佐 新 地 安 弘

同 文 化 係 長 永 峰 キヌ子

同 主 査 小 河 原 隆 文 (庶務担当)

同 主 事 近 沢 恒 典 (調査担当)

調 査 作 業 員 岩 永 スズ子 大 浦 フ ミ 窪 田 エミ子 倉 重 逸 男

黒 木 征 子 黒 木 トミ子 庄 屋 幸 子 馬 籠 恵 子

増 元 詢 子 柚 木 崎 時 男

調査指導 宮崎県教育庁

文 化 課 主 査 飯 田 博 之

- 3 本書で使用した標高は高城町役場建設課が設置した基準点を使用した。
- 4 調査にあたっては土地所有者並びに高城町役場農林振興課の協力を得た。また牧ノ原遺跡群の調査については、鹿児島大学竹内正巳氏、橋本達也氏、都城市教育委員会文化課矢部喜多夫氏、素畑光博氏、横山哲英氏、久松亨氏、宮崎県教育庁文化課、宮崎県埋蔵文化財センターの諸氏を始め多くの方々よりご教授、ご助言をいただいた。
- 5 本書の執筆及び編集は近沢がおこなった。
- 6 出土遺物や調査の資料は、高城町教育委員会で保管する。

## 本文目次

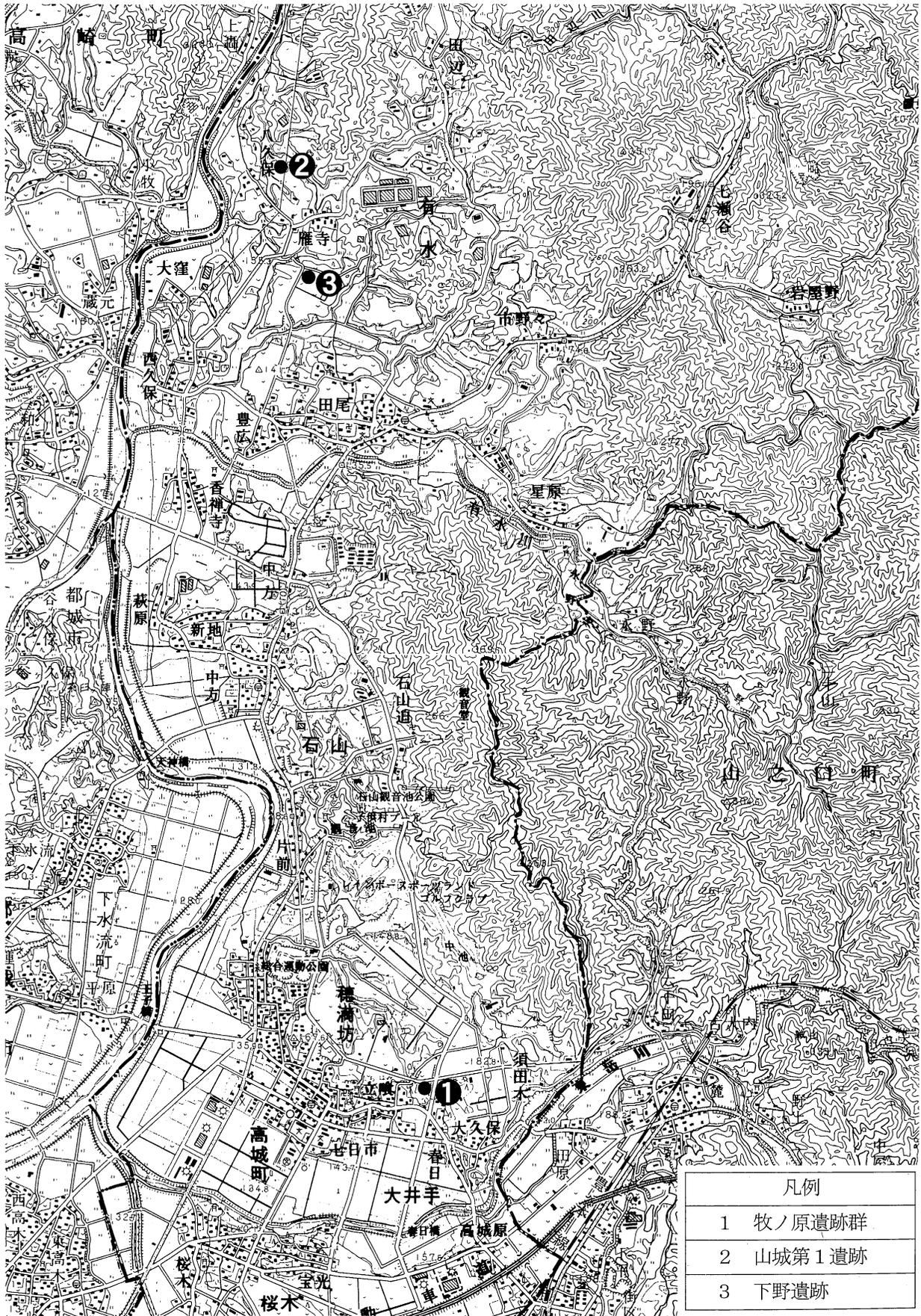
I 牧ノ原遺跡群発掘調査	
1 調査に至る経緯	2
2 調査の方法及び経過	2
3 立地と環境	2
4 調査の概要	4
II たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財試掘調査	
1 山城第1遺跡	9
2 下野遺跡	12

## 挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 牧ノ原遺跡群位置図	3
第3図 牧ノ原遺跡群地形図	3
第4図 山城第1遺跡位置図	10
第5図 山城第1遺跡地形図	10
第6図 下野遺跡位置図	12
第7図 下野遺跡地形図	13

## 図版目次

図版 1 1号箱式石棺出土状況 1	4	図版 17 牧ノ原遺跡群遠景	8
図版 2 1号箱式石棺遺物出土状況	4	図版 18 牧ノ原遺跡群全景	8
図版 3 2号箱式石棺	4	図版 19 1号箱式石棺出土状況 2	8
図版 4 1号地下式横穴墓	4	図版 20 6号地下式横穴墓	8
図版 5 2号地下式横穴墓土層堆積状況	5	図版 21 3号土坑遺物出土状況	8
図版 6 2号地下式横穴墓	5	図版 22 山城第1遺跡全景	11
図版 7 3号地下式横穴墓	5	図版 23 1号トレンチ	11
図版 8 9号地下式横穴墓	5	図版 24 2号トレンチアカホヤ火山灰層上面	11
図版 9 10号地下式横穴墓	6	図版 25 2号トレンチ	11
図版 10 11号地下式横穴墓・12号地下式横穴墓	6	図版 26 3号トレンチ	11
図版 11 12号地下式横穴墓玄室	6	図版 27 作業風景	11
図版 12 1号土坑	6	図版 28 下野遺跡全景	13
図版 13 4号土坑	7	図版 29 1号トレンチ	13
図版 14 1号溝状遺構	7	図版 30 2号トレンチ霧島御池軽石層上面	13
図版 15 5号土坑遺物出土状況	7	図版 31 2号トレンチ	13
図版 16 1号配石遺構	7		



第1図 調査地位位置図(1/50,000)

## I 牧ノ原遺跡群発掘調査

### 1 調査に至る経緯

今回の調査は個人事業による畑造成工事に起因する。

平成15年9月、個人による畑の造成中、「石組み」が出土したとの連絡が高城町教育委員会にあった。職員が現地におもむき確認した所、蓋石1枚が外れ、東側半分程度が露出した状態の箱式石棺が出土しており、工事予定地の南側約5分の1が霧島御池軽石層まで掘削されている状況であった。そのため事業者が工事中断を申し入れ、宮崎県教育庁文化課と連絡をとり取扱について協議をおこなった。その後土地所有者との協議を重ね、地盤を下げるためやむを得ず削平される部分において、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

平成15年10月1日より調査を開始し、平成16年1月4日をもって全ての作業を終了した。調査面積は約2,800㎡である。

### 2 調査の方法及び経過

調査の方法は重機で表土を除去した後、作業員による遺構確認、遺物の採取作業を行った。測量、写真撮影は調査担当者が行った。

古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が出土した。古墳時代の遺構として箱式石棺2基、土坑2基、地下式横穴墓12基等が出土した。中世の遺構としては溝状遺構1条等が出土している。

遺跡の在する牧ノ原台地は昭和40年代に大規模なほ場整備事業が実施され、全体が削平を受けている。調査区は台地縁辺に位置していたこともあり調査区北側においては表土直下が御池軽石層となるなど削平を受けていたが、西側から南側にかけては霧島御池軽石層上の遺物包含層が良好に残存していた。

### 3 立地と環境

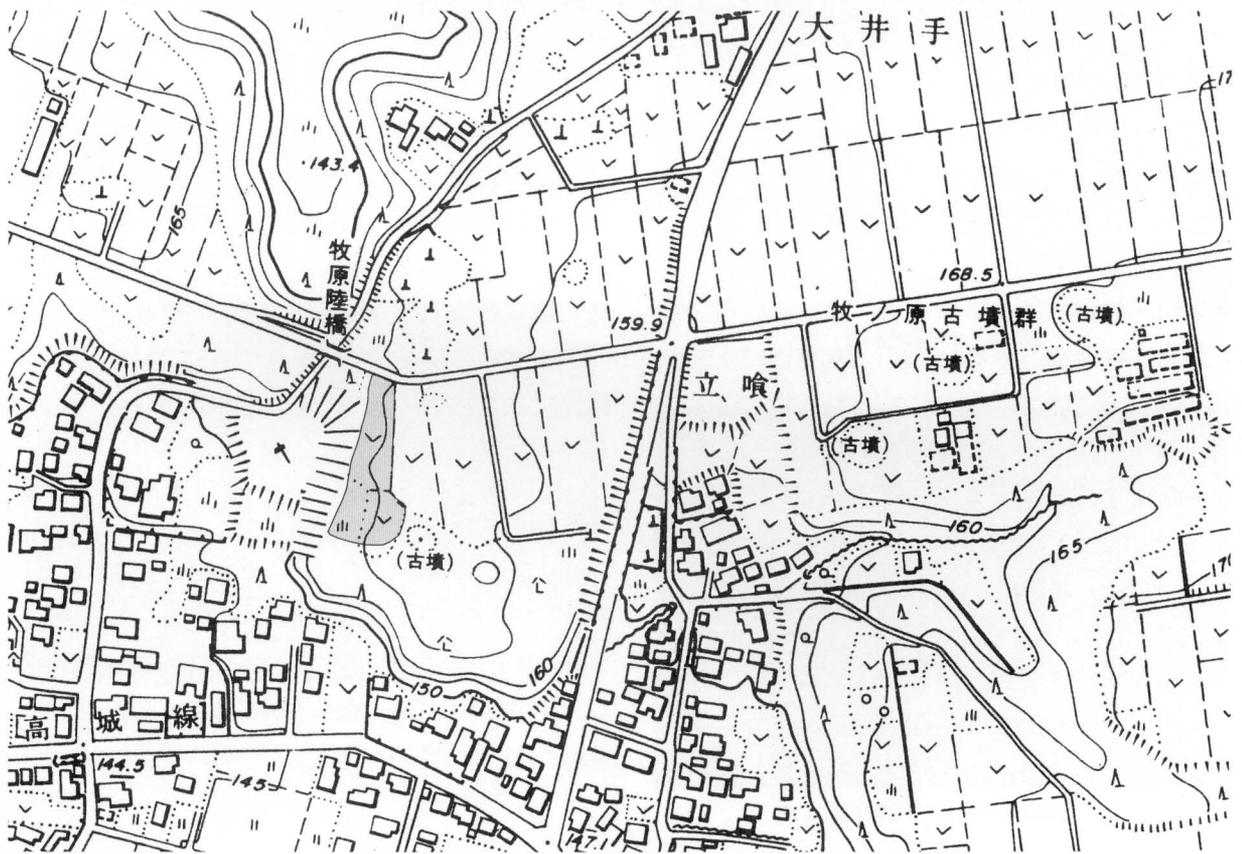
牧ノ原遺跡群は高城町の南部に位置する。西流し大淀川に合流する東岳川の北側、標高約160m～170mの河岸段丘上に立地し、大字大井手字牧ノ原、立喰に所在する。台地上のほぼ全域が「町内遺跡分布調査報告書」（1998 高城町教育委員会）において牧ノ原遺跡群（縄文時代～平安時代：遺物散布地）として記録されている。牧ノ原遺跡群内には県指定史跡である高城町古墳群22基のうち13基が所在し、前方後円墳3基、円墳10基からなる牧ノ原古墳群を形成する。牧ノ原遺跡群は過去3度にわたり発掘調査が実施され箱式石棺3基、地下式横穴墓1基、土坑墓1基が出土した。また牧ノ原古墳群は大淀川対岸に位置する高崎町塚原古墳群、都城市志和地古墳群と共に県内陸部における唯一の前方後円墳分布域を形成している。

周辺の遺跡としては、牧ノ原台地から北へ続く台地上には1985年に調査が実施され縄文時代・弥生時代の土坑、古代の掘立柱建物跡、溝状遺構が出土した永山原遺跡が立地する。調査地と谷を挟み西側台地には、中央から北側にかけて弥生時代、古墳時代、中世の遺物の散布がみられる社ヶ原遺跡が立地し、社ヶ原遺跡の南側、台地縁辺部には中世山城である高城（月山日和城）が形成されている。高城は中世肝付氏によって築城されたとされ、一国一城令により廃されるまで島津氏、伊東氏の勢力争いの先端となり使用された。シラス台地の先端部分を切って形成された南九州型の中世城郭である。

調査区は牧ノ原遺跡群の在する台地の西端に位置し、高城の在する台地とは谷によって隔てられている。標高は東側が高く、西に向い約2.5mの比高差をもつ。



第2図 牧ノ原遺跡群位置図(1/25,000)

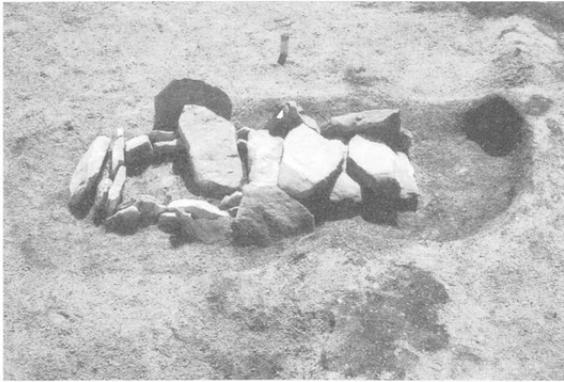


第3図 牧ノ原遺跡群地形図(1/5,000)

#### 4 調査の概要

本調査区は標高約160m～170mの牧ノ原台地の西端に位置する。調査以前は東南側が一段高くなる畑地として使用されていた。遺構検出面においては北側が削平を受けていたため明確ではないが台地中央へと続く東側がやや高く、西に向い大きく下がる斜面を形成する。

当遺跡の主要な時代は古墳時代と中世の2期に分けられる。古墳時代の遺構としては南側を中心に箱式石棺2基、地下式横穴墓12基等が検出され、中世の遺構としては溝状遺構1条のほか多数のピット等が出土している。また包含層出土の遺物については中世の土師器を中心に、墨書土器、陶器、青磁等も少量ながら出土している。



図版1 1号箱式石棺出土状況1



図版2 1号箱式石棺遺物出土状況



図版3 2号箱式石棺



図版4 1号地下式横穴墓

#### 1号箱式石棺

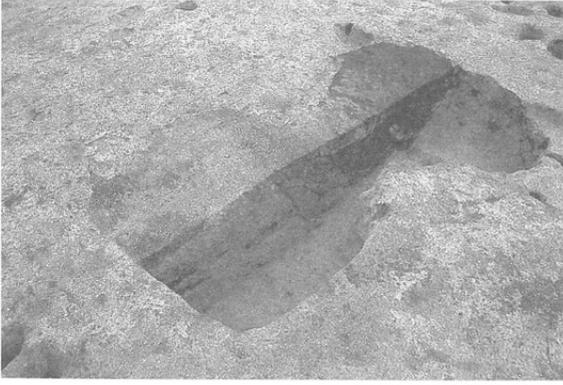
調査区の南側、県指定12号墳の西約3mに位置する。掘方は楕円形を呈し霧島御池軽石層中に構築される。石棺は蓋石、側壁、小口共に2重に重ねた板石で構成し、蓋石、側壁の隙間には粘土による充填が見られた。石棺内より鉄剣1点、人骨1体が出土し、頭部周辺には赤色顔料が確認されている。

#### 2号箱式石棺

調査区のほぼ中央において検出された。後世の攪乱により大きく破壊され、一部分のみしか現存していない。

#### 1号地下式横穴墓

調査区の南端において検出された。竪坑の平面形態は長方形を呈し、羨門は西よりに構築されている。玄室の平面形態は妻入り片袖長方形を呈し、立面形態は天井が崩落していたため不明である。玄室床面より鉄剣1点、刀子1点が出土している。



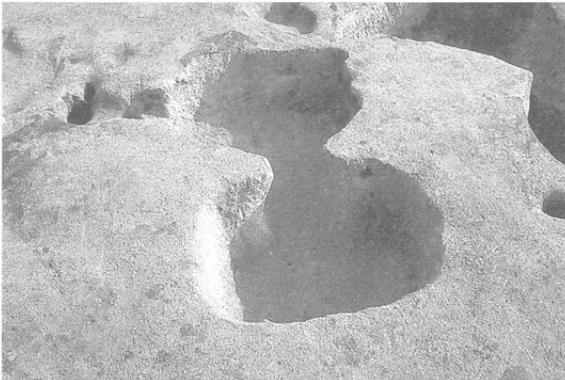
図版5 2号地下式横穴墓土層堆積状況



図版6 2号地下式横穴墓

## 2号地下式横穴墓

調査区の南端、1号地下式横穴墓の西側において検出された。竪坑の平面形態は正方形を呈し、玄室の平面形態は平入り両袖隅丸長方形を呈する。立面形態は天井が崩落しているため不明であるが、残存している壁面の状況から家型を呈していた可能性が考えられる。玄室東側より赤色顔料が確認され、埋葬時の頭位置と考えられる。刀子1点が出土している。



図版7 3号地下式横穴墓

## 3号地下式横穴墓

調査区の南側、1号箱式石棺の東に隣接して検出された。竪坑の平面形態は隅丸方形を呈し、玄室の平面形態は平入り両袖隅丸方形を呈する。立面形態は天井が崩落しているため不明であるが、残存している壁面の様子からは家型を呈していた可能性が高い。羨道から玄室にかけて赤色顔料が確認されている。



図版8 9号地下式横穴墓

## 9号地下式横穴墓

調査区のほぼ中央、南側において検出された。竪坑の平面形態は楕円形、玄室の平面形態は平入り両袖楕円形を呈する。立面形態は天井が崩落しているため不明である。玄室床面より鉄剣1点、ガラス玉5点が出土している。



図版9 10号地下式横穴墓

### 10号地下式横穴墓

調査区の南側において検出された。7号地下式横穴墓の南、8号地下式横穴墓の東側に位置する。竪坑の平面形態は楕円形、玄室の平面形態は平入り両袖楕円形を呈する。立面形態は天井が崩落しているため詳細は不明であるが、ドーム型を呈していた可能性が高い。



図版10 11号地下式横穴墓・12号地下式横穴墓

### 11号地下式横穴墓

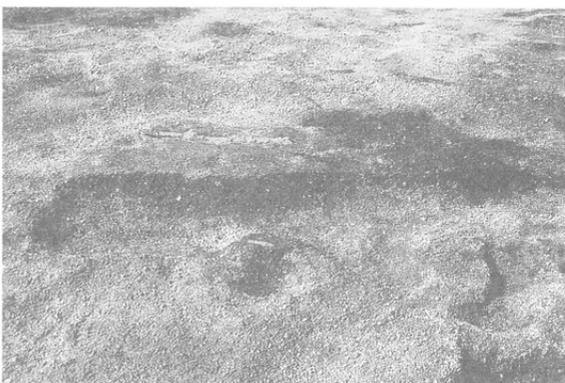
調査区の西端において検出された。12号地下式横穴墓と隣接し互いに切り合っている。また東側の約半分は攪乱により破壊されている。竪坑の平面形態は長方形と考えられ、羨門に向い傾斜をもつ。玄室の平面形態は平入り両袖方形を呈すると考えられ、床面東側より赤色顔料が検出されている。



図版11 12号地下式横穴墓玄室

### 12号地下式横穴墓

調査区の西端において検出された。11号地下式横穴墓に隣接し、互いに切り合っている。南側、西側は調査区外である。竪坑は南側に位置するが調査区外であり調査は実施していない。玄室中央より人骨1体と人骨の下より有機物の敷物が出土している。



図版12 1号土坑

### 1号土坑

調査区の北側で検出された。上部が大きく削平されており詳細は不明であるが、残存している部分においては、平面形態は円形を呈する。鉄銚1点、刀子1点が出土している。



図版13 4号土坑

#### 4号土坑

調査区のほぼ中央北側において検出された。平面形態は円形を呈する。刀子1点が出土している。



図版14 1号溝状遺構

#### 1号溝状遺構

調査区のほぼ中央において検出された。東西方向に延びるV字型の溝状遺構で、15世紀代と考えられる陶器の破片及び土師器が出土している。



図版15 5号土坑遺物出土状況

#### 5号土坑

調査区のほぼ中央北側において検出された。平面形態は円形を呈する。中世の土師器1点が出土している。



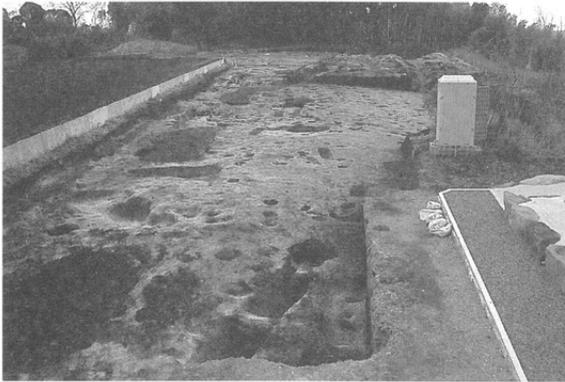
図版16 1号配石遺構

#### 1号配石遺構

調査区のほぼ中央において検出された。2号箱式石棺と重複している。平面形態が長方形を呈する土坑の上部に直径約10~20cmの石を敷き詰めていた。配石面の上部埋土には灰が多量に混じる。



図版17 牧ノ原遺跡群遠景



図版18 牧ノ原遺跡群全景



図版19 1号箱式石棺出土状況2



図版20 6号地下式横穴墓



図版21 3号土坑遺物出土状況

## II たばこ反転客土事業に伴う埋蔵文化財試掘調査

### 1 山城第1遺跡

#### 調査に至る経緯

今回の調査は高城町農林振興課が計画したたばこ反転客土事業に起因する。

平成15年12月、高城町農林振興課より高城町教育委員会に平成16年度たばこ反転客土事業予定地内における埋蔵文化財について照会があった。そのため高城町農林振興課と高城町教育委員会の間で協議が進められ、平成15年度においては作物の栽培がされてなく調査に入れる候補地2件に関し試掘調査を実施することとなった。

調査は山城第1遺跡については平成15年12月24日、下野遺跡については25日の計2日間、開発予定地の畑内に2m×5mを基本とするトレンチを山城第1遺跡では3本、下野遺跡では2本設定し遺構・遺物の確認を行った。

#### 位置と環境

開発実施予定地は高城町のほぼ中央西端に位置する。高崎町との町境である大淀川の東岸、標高約152m～157mの台地上に立地し、大字有水字山城に所在する。当台地は鱈塚山地から連なる山地の西端から大淀川まで西方に延びる台地で、西を大淀川、北を八久保川、東を永山川に囲まれる。台地縁辺には幾本もの谷が刻まれ、入り組んだ地形を形成する。開発予定地の在する台地上はほぼ全てが「町内遺跡分布調査報告書」（1998 高城町教育委員会）において山城第1遺跡（縄文時代・平安時代・中世：遺物散布地）として記録されている。

当台地は平成12年度に県営ほ場整備事業細井地区が実施されており、台地中央はそれに伴う発掘調査により縄文時代の竪穴住居跡52軒、古墳時代の竪穴住居跡4軒等が出土している。

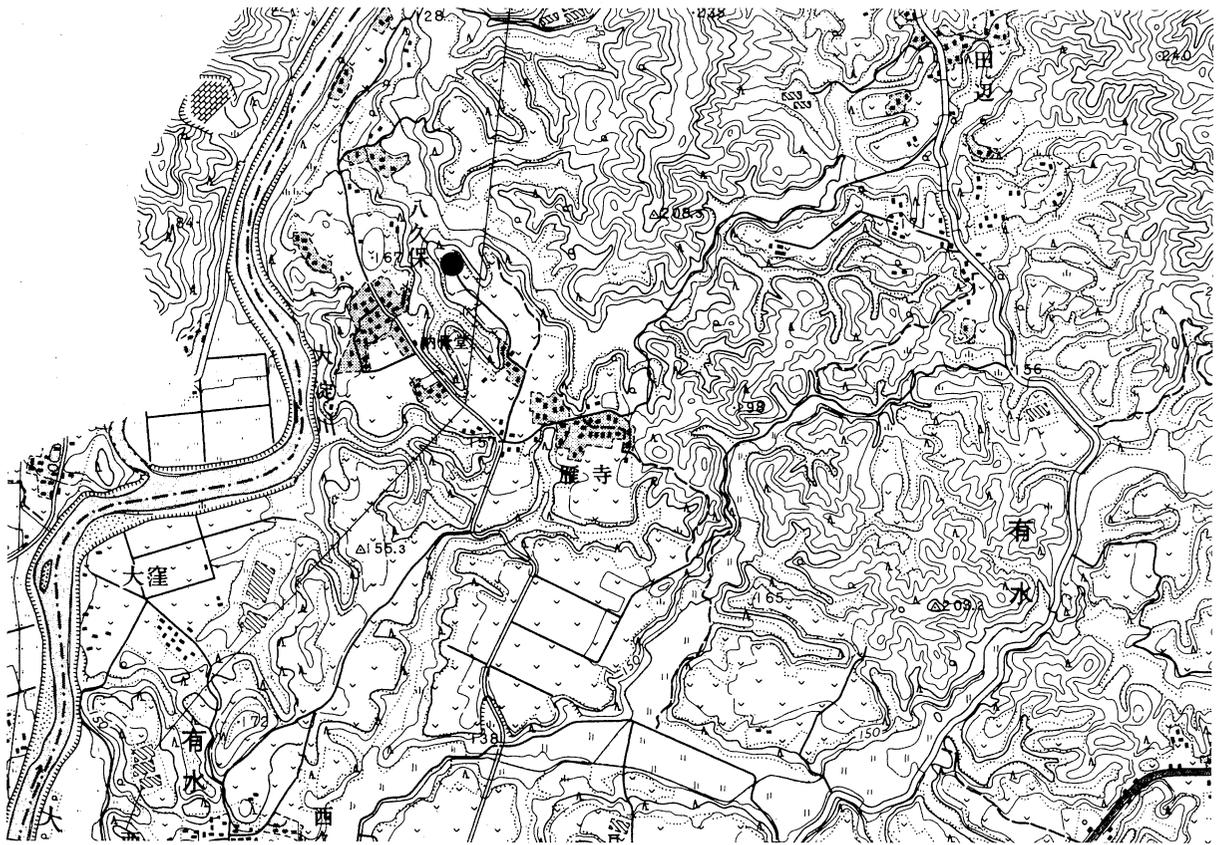
#### 調査の内容

基本層序は1号トレンチにおいて確認された土層堆積において代表される。第1層・耕作土、第2層・霧島御池軽石層、第3層・暗褐色土、第4層・アカホヤ火山灰、第5層・カシワバン、第6層・褐色土1、第7層・褐色土2、第8層・小林軽石であった。

土層の堆積状況は各トレンチとも耕作土直下が霧島御池軽石層となり、なおかつ霧島御池軽石層上面が削平を受けていたが、それ以下は良好な堆積状況を保っていた。

各トレンチとも霧島御池軽石層以下、アカホヤ火山灰層上の遺物包含層からが良好な状態で残っていたが、遺物の出土は無く、アカホヤ火山灰層上面においても遺構の出土は確認されなかった。またアカホヤ火山灰層以下、褐色土1、2においても遺構・遺物の出土は確認されなかった。

今回、出土遺物は2号トレンチ付近で採集された土器片1点のみであった。



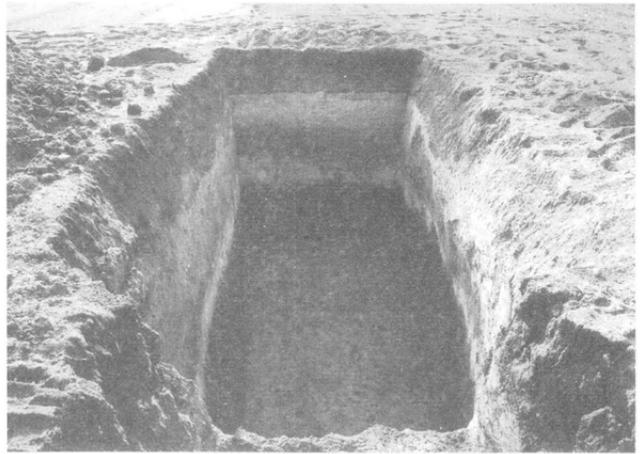
第4図 山城第1遺跡位置図(1/25,000)



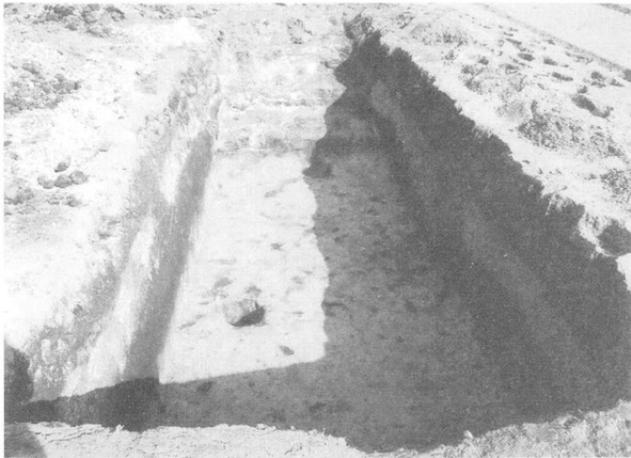
第5図 山城第1遺跡地形図(1/5,000)



図版22 山城第1遺跡全景



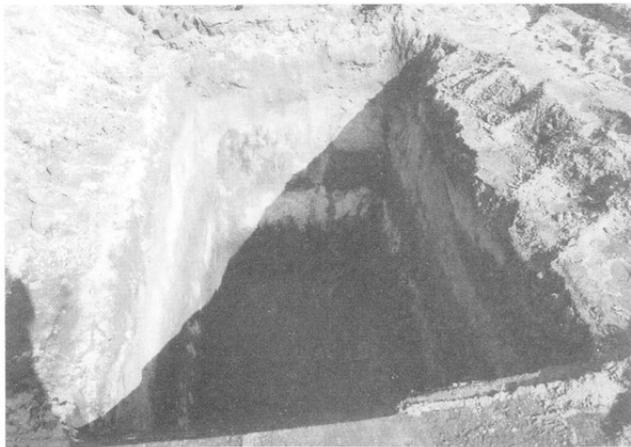
図版23 1号トレンチ



図版24 2号トレンチアカホヤ火山灰層上面



図版25 2号トレンチ



図版26 3号トレンチ



図版27 作業風景

## 2 下野遺跡

### 位置と環境

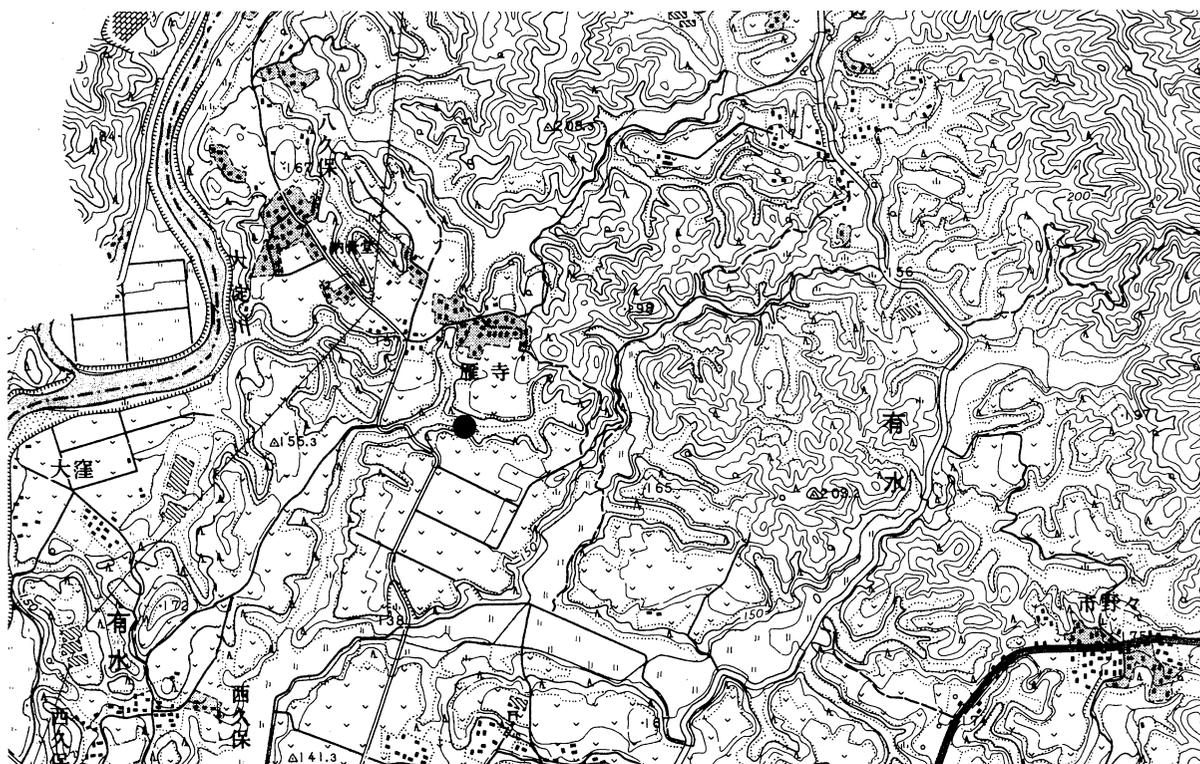
開発実施予定地は高城町のほぼ中央西端に位置する。高崎町との町境である大淀川の東岸、標高約156m～160mの台地上に立地し、大字有水字下野に所在する。当台地は鱈塚山地から連なる山地の西端から大淀川まで西方に延びる台地で、山城第1遺跡は谷を挟み北側に位置する。台地の東側から南側下にかけては大淀川の支流である永山川が位置し、谷を挟み西側は縄文時代の竪穴住居跡、古墳時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡等が出土した上原遺跡群が位置する。開発実施予定地の在する台地は「町内遺跡分布調査報告書」(1998 高城町教育委員会)において下野遺跡(縄文時代・弥生：遺物散布地)として記録されている。現在は畑地として利用されている。

当遺跡の在する台地中央部は平成10年度に葉たばこ反転客土事業に伴い発掘調査が実施され、平安時代と考えられる掘立柱建物跡2軒と多くの土坑及び柱穴、縄文時代～平安時代にかけての土器が多数出土している。

### 調査の内容

基本層序は1号トレンチにおいて確認された土層堆積において代表される。第1層・耕作土、第2層・高原スコリア、第3層・黒色土、第4層・霧島御池軽石、第5層・黒色土、第6層・アカホヤ火山灰、第7層・カシワバン、第8層・褐色土1、第9層・褐色土2、第10層・小林軽石であった。

土層の堆積状況は各トレンチとも耕作土の直下より、薄くではあるが高原スコリアが確認されるなど良好な堆積状況を保っていた。だが各トレンチとも霧島御池軽石層上遺物包含層以下、遺物の出土は無く、霧島御池軽石層上面及びアカホヤ火山灰層上面においても遺構の出土は確認されなかった。またアカホヤ火山灰層以下、褐色土1、2においても遺構・遺物の出土は確認されなかった。



第6図 下野遺跡位置図(1/25,000)



第7図 下野遺跡地形図(1/5,000)



図版28 下野遺跡全景



図版29 1号トレンチ



図版30 2号トレンチ霧島御池軽石層上面



図版31 2号トレンチ

# 報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはつくつちようさほうこくしよ							
書名	町内遺跡発掘調査報告書IV							
シリーズ名	高城町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第15集							
編集者名	近沢恒典							
編集機関	高城町教育委員会							
所在地	宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊46番地2							
発行年月日	2004年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まきのはるいせきぐん 牧ノ原遺跡群	たかじょうちょう 高城町  おおあざおおいであざまきのほる 大字大井手字牧ノ原	453439	2017	31° 47' 55"	131° 08' 36"	2003,10,1 ~ 2003,12,31	2,800㎡	個人による 畑地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺物		主な遺構		特記事項
牧ノ原遺跡群	散布地	縄文時代～平安時代		箱式石棺 地下式横穴墓 土坑 溝状遺構		鉄剣 鉄矛 ガラス玉 土師器 青磁		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やましろだいいいせき 山城第1遺跡	たかじょうちょう 高城町  おおあざありみずあざやましろ 大字有水字山城	453439	5063	31° 52' 14"	131° 07' 57"	2003,12,24	30㎡	たばこ反転 客土事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
山城第1遺跡	散布地	縄文時代～古墳時代 古代 中世 近世				縄文土器		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
げのいせき 下野遺跡	たかじょうちょう 高城町  おおあざありみずあざげの 大字有水字下野	453439	5023	31° 51' 48"	131° 08' 04"	2003,12,25	20㎡	たばこ反転 客土事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下野遺跡	散布地	縄文時代 弥生時代						

高城町文化財調査報告書第15集  
町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

2004年3月 発行

編集・発行 高城町教育委員会  
宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊46番地2  
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-2317

印刷・製本 (有)アマガミ印刷  
宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊144番地4  
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-5851